



令和4年度 8月人権一口講座



人権一口講座

「アマチュアゴルファーの私が感じた事」

6月に行われた女子プロゴルフの試合中、選手とキャディー(選手に付き添い、戦術についてアドバイスを行って選手を助けるパートナー的存在)の意見が対立し、キャディーが試合途中であるにもかかわらず、「職場放棄」してコースから立ち去るという前代未聞の事件が起こった。

選手に対しての「進言」を選手が受け入れなかったことに、キャディーがキレた(※頭に血が上り怒った)という。選手にとってのキャディーは、試合中であつて「唯一無二の存在」であり、相談できるのはキャディーだけ。固い信頼で結ばれるべき関係のキャディーに「職場放棄」された選手は、次のショットを打つ前に泣き出してしまった。真相は調査中(7月初旬現在)ということだが、この報道が正しければメンタル的な要素が大きなウエイトを占めるゴルフにおいて、この「職場放棄」は選手にとつてかなりのダメージであつたに違いない。

“職場放棄”をしたキャディーの持つ実績は、かなり優秀だそうだが、いかなる理由があろうとも、仕事(試合中)に仲間(選手)に激高し、職場(ゴルフ場)を立ち去るという行為は、社会人として失格であり、一種のハラスメントと判断されても仕方がない。

あるゴルフ雑誌の関係者も「キャディーは選手から声がかかつて成立する仕事で、自分と意見が合わないから立ち去るといった職場放棄は言語道断である。」と言つていた。

ゴルフ界でも規則があり、その規則集の「帯同キャディー規則」では、「キャディーはいかなる時でもエチケットとマナーを守り、他のプレーヤーに対しても心くばりを忘れず、スポーツマンシップに違反するような言動をしてはならない」と明記されているという。

この規則は、キャディーだけでなく、選手や観客、またゴルフ界に留まらず、他のスポーツでも通じていて、ひいては日本人すべて、いや世界中の人すべてに当てはまるのではなからうか。

年間ツアーも有観客で開催され始めている。コースには久しぶりの有観客試合ということで数多くのギャラリー(観客)も居合わせていた。まだ若いこの女子選手は、支えとなるべきキャディーが居なくなり、さぞ苦しかっただろうし、人目もあって怒りよりも恥ずかしさや悲しさが先に立つての涙であつただろう。

この出来事が気になった私も、アマチュアゴルファーのはしくれで、友人と月一ゴルフを楽しんでいる。好調な日もあれば、何をやっても上手くいかない日もあつたりするのである。

ゴルフに限らず、仕事やプライベートでも同じことが起こりうるものであり、調子がいい時も、上手くいかない時も、人としてエチケットとマナーを守り、自分以外の人に対して心くばりや思いやりを忘れず、人としての道徳に反するような言動をせずに、謙虚で穏やかな気持ちの日常を過して行きたいものである。

〔熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和4年度8月号より〕

短いメッセージ

自分とほかの人をくらべない
自分らしさを大事にしたい

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会 人権カレンダー 託麻原小学校4年 床嶋芽依さん(2021年度の作品より)